

てづく かみしほい 手作り紙芝居

にがつとうそう 「二月闘争」

どうにゆうぶ 導入部

こんげつ でんとう にがつとうそう について まな びます。師のわかきひのたたかひを学びふかめ、でしであるわたし
たちひとりひとりが、けついもあらにしゅっぱつしていきたくおもいます。

1枚目／こうふしにさんぜんとかがやぐきょうたつせい (8枚目の絵の裏に貼る)

1952 (しょうわ 27) 年の2月、とうじ 24さいだったわか いけだせんせい、かまたしぶのしぶかんじとして、201せたい
の弘教を達成しました。当時、もつとかつりよくあるしぶでもつきに100せたいというじだいにあつて、それまでの
げんかいをおおきくうちやぶったこのたたかひは、ぜんこくのどうしゆうきかくしんあたえはどうひろげました。これ
が広布史にさんぜんでんとうにがつとうそうです。

2枚目／だいにだいかいちやうとだせんせいせいがん (1枚目の絵の裏に貼る)

1951 (しょうわ 26) 年5月3日、第二代会長にしゅうにんとだせんせいは、そのせきじやうまんせたいぐきやう
誓願をはつびやう発表しました。とうじかいいんは3000にんをこえるていどにすぎず、戸田先生のせいがんをきいたひとびと
にとって、75万というかずそうぞうもつかないほどえんだいなものにかんじられたのでした。

3枚目／かりがねこうしん (2枚目の絵の裏に貼る)

とだせんせいだいにだいかいちやうしゅうにん げつ 9か がつ たつた しょうわ 27 年 1 月 末 時 点 だ け、弘 教 の たたか 戦 い は 思
ったようにすすんでいませんでした。戸田先生は、こうしたじやうたいをうちやぶるため、「雁行進は、こんげつをも
って、いっさいうちきりとする!」とせんげんします。このころのかくしぶのぐきやうのじやうたいを、よこいっせんなら
んですすむがむのむれにたとえて、「雁行進」と言われたのでした。

4枚目／蒲田支部幹事に任命 (3枚目の絵の裏に貼る)

「このままでは、とうてい、^{こうせん るふ} 広宣 流布 はできない。本当の ^{ほんとう} 弟子 はいないのか!」との ^{とだ せんせい} 戸田 先生の 思いに ^{こた} 応えて ^{たちあ} 立ち上がったのは ^{わか} 若き ^ひ 日の ^{いけだ せんせい} 池田 先生 でした。戸田先生は ^{さい} 24歳 の ^{せいねん} 池田 青年 を蒲田支部の支部幹事に任命します。それは、池田青年が ^{つね} 常に ^{こころ} 戸田先生の ^{こた} 心に ^{せんく} 応え、^{じっせん} 先駆 の ^{ぞん} 実践 を ^{ぞん} することをよく ^{ぞん} 存じ ^{ぞん} じたから でした。

5枚目／明確な目標を掲げる (4枚目の絵の裏に貼る)

蒲田支部の支部幹事となった ^{いけだ せんせい} 池田 先生 は、「この ^{がつ} 2月、^{みごと} 見事 な ^{しょうり} 勝利 の ^{けっか} 結果 を ^{とだ せんせい} もって、^{たんじょう} 戸田 先生 の ^{たんじょう} 誕生 の ^{つき} 月 を ^{いわ} お祝い しよう ではありませんか!」と、支部の ^{みな} 皆 に ^{うった} 訴え ました。誰 よりも ^{だれ} 師 を ^し 思い、^{おも} 75万 ^{まん} 世帯 の ^{ぐきょう} 弘教 という ^{いけだ せんせい} 戸田 先生 の ^{こうそう} 構想 を ^{かなら} 必ず ^{じつげん} 実現 させて ^{つよ} みせる という ^{けつい} 強い ^ひ 決意 を ^ひ 秘めていた ^{いけだ せんせい} 池田 先生 は、支部 ^{くみ} 200 世帯、^{くみ} 組 2 世帯 という ^{くみ} 明確 な ^{くみ} 弘教 の ^{くみ} 目標 を ^{くみ} 掲げ ます。

当時 は、^{とうじ} 支部 ・ ^{ちく} 地区 ・ ^{ほん} 班 ・ ^{たいせい} 組 という ^{せいび} 体制 が ^{せいび} 整備 されたばかり でした。池田先生は、これまでになかった「^{たいせい} 組」^{たんい} 単位 での ^{しやくぶくざだんかい} 折伏 座談会 を ^{おこな} 行う など、^{しょうにんずう} 少人数 の ^{つど} 集い を ^{たいせつ} 大切に し、^{さいぜんせん} 最前線 の「^{たいせい} 組」に ^{しやうてん} 焦点 を ^あ 当てた の でした。

6枚目／一人ひとりに光を当てる (5枚目の絵の裏に貼る)

^{いけだ せんせい} 池田 先生 は ^{くみざだんかい} 組 座談会 を ^{てっぺい} 徹底 して ^{まわ} 回り ^ぬ 抜き、^{ひとり} 一人 ひとりを ^{げきれい} 激励 して いました。特に ^{とく} 入会 して ^{にゅうかい} まだ ^ひ 日の ^{あさ} 浅い ^{たい} メンバー に対して は、「^{あたら} 新 しい ^{ひと} 人」^あ だからこそ ^{ちから} “新 しい ^{ちから} 力” を ^も 持っている」と ^{はげ} 励まし、^{ひとり} 一人 ひとりの ^{こうふ} 広布 に ^{たたか} 戦う ^{こころ} 心を ^も 燃え ^あ 上がらせて いった の です。この ような ^{いけだ せんせい} 池田 先生 の ^{てっ} 徹 して ^{ひとり} “一人” を ^{たいせつ} 大切に した ^{はげ} 励まし の ^{こうどう} 行動 で ^{しぶ} 支部内 の ^{くうき} 空気 は ^{いっぺん} 一変 し、^{ぐきょう} 弘教 の ^{かんき} 歓喜 が ^{ひろ} 広がって いました。

7枚目／201世帯の弘教を達成 (6枚目の絵の裏に貼る)

こうして 2月 25 日、^{かまた しぶ} 蒲田 支部 は ^{ばい} これまで の ^{ばい} 弘教 に ^{ばい} 倍 する ^{おお} 201 世帯 を ^{かべ} 達成 し、^{やぶ} 大きく ^{かべ} 壁 を ^{やぶ} 破り ました。それは、^し 師 を ^{おも} 思う ^{いけだ せんせい} 池田 先生 の ^{あつ} 熱き ^{こころ} 心 と、^{そっせんすいはん} 率先 垂範 の ^{こうどう} 行動 に、^{みな} 皆 が ^{ふる} 奮い ^た 立って ^{うち} 打ち 立てた ^{こうふ} “広布 の ^{きんじとう} 金字塔” でした。そして ^{おお} 多くの ^{おお} 支部 が ^{つづ} “蒲田 に ^{つづ} 続け” と ^{おお} 奮い 立ち、^{いっきお} 弘教 の ^ま 勢い が ^ま 増 して いった の です。

8枚目／^{みずか}自らが^{こうふ}広布の^{げんどうりよく}原動力に (7枚目の絵の裏に貼る)

「^{にがつとうそう}二月闘争」によって^{いきお}勢いを増した^{がっかい}学会は、この年には2万世帯を超え、5年後の1957(昭和32)年12月、ついに^{とだせんせい}戸田先生の^{がんぎよう}願業である75万世帯の^{まんせたい}弘教が^{ぐきよう}達成されたのです。^{でんとう}伝統の「二月闘争」を^{つらぬ}貫くもの、それは、“断じて師の^{こうせん}広宣流布の^{がんぎよう}願業の^{とっぼこう}突破口を開く”という「^{していふに}師弟不二」の^{せいしん}精神です。この2月、^{わたし}私たちも自らが広布の原動力にとの^{けつい}決意で、^{ししやう}師匠に^{こた}応えていく^{たたか}戦いを^{てんかい}展開していきましょ

う。

^{けつい}決意など